

JCMA 報告

2005 年前半の ISO 国際会議

標準部会 ISO 専門委員会

建設機械関係の ISO の専門委員会 (TC 127 土工機械及び TC 195 建設用機械及び装置では、2005 年前半に、次の国際会議が開催され、それぞれ日本より代表を派遣して、活発に日本の意見を主張したので、報告します。なお、5 章の TC 127 総会及び各分科会会合 (北京) 及び 6 章の TC 195 総会及び各作業グループ会合 (ワルシャワ) に関しては、次号以降で、各委員長から、より詳細な報告を頂く予定です。

1. TC 127/SC 4/WG 2 「基本機種の用語」作業グループ会議

イタリア国ボローニャ市で平成 17 年 2 月 14 日、15 日開催、イタリア 3、米国 1、日本 1 (砂村氏 (日立建機)) 計 5 名で、ISO/DIS 6165 “基本機種の用語” 改正案を検討した。日本にとっては問題の少ない内容であることが確認できたが、今後 JIS A 8308 の改正が必要となろう。

2. TC 127/SC 2/WG 5 「油圧ショベル ROPS」作業グループ会議

米国サンフランシスコ市で平成 17 年 3 月 14～15 日開催、オーストラリア 1、ドイツ 4、イタリア 1、韓国 1、スウェーデン 1、英国 2、米国 7、日本 4 (小竹氏、田中氏 (コマツ)、山川氏 (新キャタピラー三菱)、西脇 (協会)) 計 21 名出席。

田中氏を会議の主査として、ISO/WD 12117.2 「油圧ショベル転倒時保護構造 (ROPS)」案文を検討し、ROPS に関する負荷条件として、側方負荷エネルギーはブルドーザに対する式と同じ、上下方向荷重は 1.3 W、側方荷重値は更に検討、前後方向負荷についても検討、ブーム及びカ

ウンタウエイトなどキャブ以外の機械の剛性の高い部分による保護は条件を付して認めることなどを論議した。

本件は日本担当であり、ISO 制定のため、今後とも会員各位のご協力を賜りたい。

3. TC 127 「全身振動」作業グループ会議

米国サンフランシスコ市で平成 17 年 3 月 16～17 日開催、ドイツ 5、英国 2、フランス 1、スウェーデン 1、米国 5、日本 3 (上田氏、山川氏 (新キャタピラー三菱)、田中氏 (コマツ)) 計 17 名出席。

背景として、EU フィジカルエージェント (振動) 指令が遅くとも 2007 年 7 月から施行され、EU 域内では、各種機械を使用する事業者は、労働者が受ける手腕～全身振動の値が「要対策値」を超える場合は何らかの対策を、また「規制値」を超えてはならないので、建設機械を使用する事業者が、振動加速度値を容易に推定できるようにするため、機械のクラス、アプリケーションを考慮した振動加速度データを ISO/TR (技術報告書) としてまとめるべく論議しており、TR 原案及びそのための各機種、各アプリケーションの振動加速度データ (千を超えるデータが集められた) を検討した。

本件は EU の法令を背景としているが、運転員の振動レベルという点では EU に限られたことではなく、今後とも積極的に協力していく必要がある。

4. TC 127/WG 2 「施工現場情報交換」作業グループ特設会議

米国ラスベガス市 CONEXPO 会場ジョンディアブースにて平成 17 年 3 月 16 日開催。

米国 2、日本 3 (古屋氏 (大林組)、渡邊氏 (日立建機)、西脇 (協会)) 計 5 名出席。

米国担当で作成中の WD 15143-2 「施工現場情報交換—データ辞書」に関して、日本で実施の情報化施工関連で必要とされるデータ要素の採用を求め、米国が提案している機械管理関係とあわせ、案文整備のための調整を行った。

5. TC 127 「土工機械」総会及び各分科委員会会議

中国北京市で平成 17 年 5 月 8 日～13 日開催、オーストラリア 1、南アフリカ 2、イタリア 3、ドイツ 2、日本 10 (山元氏 (土木研究所)、小竹氏、花本氏、平木氏、田中氏 (コマツ)、有光氏 (コベルコ建機)、政次氏、足立氏 (新キャタピラー三菱)、砂村氏 (日立建機)、西脇 (協会))、アメリカ合衆国 7、英国 6、スウェーデン 5、中国 11、フ

ランス 3, ブラジル 1, 中央事務局 1, 国際連合代表者 1 :
計 11 カ国, 延べ 53 名出席。

最初と最後に総会を, 間に SC 1~SC 4 の各分科会を挟んで
行い, SC 3 分科会「運転及び整備」に関しては小竹
氏が国際議長, 西脇が国際幹事として会議を運営した。

今回の総会では, 日本担当案件 WD 15143-1 及び WD
15143-3「施工現場情報交換」及び前述の WD 12117.2
「油圧ショベル転倒時保護構造」に関してはプレゼンテー
ションを行って各国の理解を求めた。CD 16714「リサイ
クル性」及び FDIS 15817「遠隔操縦の安全要求事項」に
関しては各国意見の処理に関して説明を行い, DIS 15818
「つり上げ及び固縛」に関しては FDIS に進めるべく同じ
く各国意見の処理を説明した各国から更に意見が提出され
たため第二次 DIS 案文を準備することとした。また, ISO
8811「締固機械—用語及び仕様項目」に関しては, SI 単
位の適用などに関して誤記が多いとして修正を求めたところ,
日本が担当すべきとされ, スウェーデンが作業に復帰
するまでのつなぎを条件に引受けるなど積極的に参画した。

また, 他の重要案件として, EN 474 (土工機械—安全
要求事項) の ISO 化が論議された。本件は国際連合欧州
経済委員会の活動とも関連 (今回は国連関係者も出席) し
ていることから, 日本として積極的な寄与が求められてお
り, 会員各位の更なるご協力をお願い申し上げます。

6. TC 195「建設用機械及び装置」総会及び各作 業グループ会議

ポーランド国ワルシャワ市で平成 17 年 5 月 31 日~6 月

3 日開催, ポーランド 7, ドイツ 4, ルーマニア 2, スウェー
デン 2, フィンランド 1, イタリア 1, 米国 6, 中国 2, 韓
国 2, 日本 5 (瀬田氏 (イーグル工業), 大村氏 (フェーネ
スエンジニアリング), 養安氏 (コマツ), 川合, 阿部 (協
会)) 計 32 名出席。

先行して WG 4, 5, 7, 8 の作業グループ会議を開いた。
最後に総会を行い, 日本が主査を務めている WG 4「コン
クリート機械」で日本担当案件の進展を図るとともに,
WG 4 を SC (分科委員会) に格上げして日本がその幹事
国を引受けることが決定された。今後とも鋭意活動すべく,
会員各位のご協力をお願い申し上げます。

7. 各作業グループの国際会議

上記の他, 6 月 23 日, 24 日にフランス国パリで ISO/
TC 127/SC 1/WG 1「盗難防止装置」会議, ドイツ国ミュ
ンヘンで 27 日, 28 日に ISO/TC 127/SC 2/WG 8「安全標
識及び警告表示」会議, 29 日, 30 日に ISO/TC 127/SC 2
/WG 3「土工機械—音響測定」会議が開催された。

盗難防止は社会的にも問題であり, 安全標識は作業現場
の安全確保に重要である。音響測定は騒音規制関係法令と
も関連するなど重要な案件なので, これらの一連の作業グ
ループ国際会議に日本からは砂村氏 (日立建機) を派遣し,
積極的に参画いただいた。

JICMA

(文責: 社団法人日本建設機械化協会 川合・阿部・西脇)

建設機械用語集

- ・建設機械関係業務者一人一冊必携の辞典。
- ・建設機械関係基本用語約 2000 語 (和・英) を収録。
- ・建設機械の設計・製造・運転・整備・工事・営業等業務担当者用辞書として好適。

B5 判 200 頁 定価 2,100 円 (消費税込) : 送料 600 円
会員 1,890 円 (消費税込) : 送料 600 円

社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 (機械振興会館) Tel. 03(3433)1501 Fax. 03(3432)0289